

ミラノからの手紙

Lettera da milano

第6号

2024年8月26日(月)

ミラノ日本人学校 藤田優

ミラノ日本人学校 (①)

みなさん、夏休みはどうでしたか？楽しく過ごせましたか。さて今回は、僕が働いている「ミラノ日本人学校」について少し紹介します。こちらでも日本と同様に夏休みがありました。児童生徒数は1年生から中学3年生まで約70名。多くの児童生徒が、家族の仕事の転勤でイタリアにきています。そして、関東、関西の子どもたちが多いです。さて、イタリア(海外)に住んでいる日本人の子どもたちは、現地校(イタリアの学校)、インターナショナル校(授業全部が英語)、そして日本人学校のいずれかを選んで通うそうです。3つの学校の大きな違いは、普段の授業がどの言葉を使うかということです。現地校はイタリア語、インターナショナル校は英語、そして日本人学校は日本語を主に使っています。世界各地に日本人学校はあり、イタリアには首都ローマとミラノにあります。では続きはまた今度。

ミラノ日本人学校の様子



学校正面

いつも鍵がかかっていて簡単に入れないようになっています。



玄関

2階が玄関になっています。



運動場

人工芝がしきつめられています。広くはありません。